

私はなぜプリント・コミュニケーションを50年も続けているか

● やまびこ会主宰・山田 暁生

半世紀近く前、ガリ版印刷から始まった山田暁生先生のプリント・コミュニケーション。これまで一貫して続けてきた通信の発行の意義やかけてきた思い、継続の秘訣をご紹介いただきました。

自分の指導・実践を下支えしてくれているもの

1960年。私は公立中で教師生活の第一歩を学級担任として踏み出しました。

始業式を前に考えたことは、「クラスの生徒たちや保護者に新米教師の自分をどう信じて接してもらえばいいか」ということでした。全ての教育は受ける者と授ける者の間に信頼関係が無ければ実らないと思っていたからです。

では、その信頼関係はどちらが先に築こうとすればいいか。私は「信じれば信じられる」と心に決め、まずは担任の自分から先に胸襟を開いて生徒や保護者に接して行こうと決心したのである。

当時は電話のある家庭はクラスで2、3家庭しかなく、全ての家庭に担任の思いや学校の情報を伝えるにはプリント（当時はガリ版

印刷）によるしかなかったのです。

お互いに全く知らない間柄の者が知り合い、理解し合い、連携して行くところまで高めるには濃度の濃いコミュニケーションをまず教師の側からして行こうと考え、始業式早々から通信の発行に踏み切りました。

第1号には自分の生い立ちを書き、担任としてどんなことを生徒たちに願っているのか、彼らの成長のために保護者にどう対応してほしいかと思っているかといったことをプリントして生徒たちに渡しました。

生徒も保護者もこうした通信を貰ったことが無かったらしく、とても私の発信に関心を持ってくれました。うちの担任はどんな素性の人間かに強い関心をもって迎えてくれたのでしょうか。



「やまびこ」に託した願い

山田 暁生●1960年より35年間、中学校数学教師として生徒を指導する中で、学級通信、学年通信、数学通信、進路通信などを発行。保護者や生徒とのコミュニケーションに力を入れてきた。現職時代から全国教育交流会「やまびこ会」を主宰して「月刊やまびこ」を発行。1995年退職。「月刊やまびこ」は今年1月号で創刊21年、250号を迎えた。山田中学生問題研究所代表。読売新聞社インターネット教育相談員。「子どもの長所の見つけ方伸ばし方」(学陽書房)、ほか67冊。
E-mail ya-117@w6.dion.ne.jp



初めての担任クラスは中だるみと言われる2年生でしたが、保護者会への出席者も8割近くおり、青年教師の私も保護者との対話に張り切ったものでした。

中学は毎年クラス替えをするため1年限りの担任が普通でしたので、1学期間に保護者・生徒・担任の心を結び付けていかないと、2学期、3学期と実のある学級経営が出来ません。とは言え、家庭訪問や保護者会を頻繁にできるような時間的ゆとりがない状況で、プリントによる発信はとても有効なコミュニケーションの手段となったのです。

これが私の様々な思い切った指導をしていくための強い下支えをしてくれました。保護者や生徒が打ち出す指導をとっても信頼してくれましたし、家庭でわが子に担任の指導をしっかり受け止める言葉がけをしてくれたからです。

ツイウェイ・コミュニケーションを求めて

そもそも特に学校教育においてはコミュニケーションは「ツイ・ウェイ」でなければ効を奏しません。伝えたいつもりでは「一方通行」で、それが生徒や保護者にどう受け止められ、どう理解され、どう活かそうとしているのかが分からなければ、コミュニケーションしたと言えないでしょう。

発行した通信に対するアンケートを時折取ったり、「家庭通信ノート」を用意して全家庭

に配り、学級通信を発行しながら、一方で、生徒や保護者と1対1の個人対話も進め、深めていきました。

こうしたツイ・ウェイ活動が相互理解に大きな役割を果たしてくれました。担任が伝えたいことを保護者が咀嚼してわが子に諭してくれたり、家庭での親子の会話の材料にしてくれたり、担任が予期せぬほどに通信で取り上げた話材を家庭でも生かしてくれました。そのような様子が家庭通信ノートで私に知らされたことが担任としての指導のしやすさを助けてくれたのです。

私が50年近くもプリコミにのめり込んだワケ

プリント・コミュニケーション（＝プリコミ）の効用に味を占めた私は通信の名前を「やまびこ」と名付け、クラスが変わっても学校を異動しても「やまびこ」で通しました。35年の教職生活に終止符を打ちフリーな立場になっても、一貫して「やまびこ」で通信を発行し続け、間もなく50年を迎えようとしています。フリーになる5年前の現役中から、全国の「学校でプリコミを楽しんで実践している教師の会（やまびこ会）」を立ち上げ、毎月発行する会員通信誌も「やまびこ」と名付け、目下継続中です。

「やまびこ」コミュニケーションは一貫して前ページの版画のような願いを託しています。願いを一貫して発信することで生徒も保護

者も「やまびこが読める」ことに期待してくれました。そのお陰で年度当初に担任が苦労する「PTAのクラス委員決め」や「保護者会の参加率向上」などでは保護者の積極的な姿勢が生まれ、ほとんど苦労することはありませんでした。これらは日常のプリコミによる相互理解が大きく助けてくれたのだと思っています。

ほぼ日刊で発行してきた「やまびこ通信」は過去半世紀にわたる私の実践記録・教職生活記録となつて残るといふ思わぬ貴重な副産物を生み出してもくれました。通信だけでも3万枚ほどあります。

いいこと尽くめの「やまびこ通信実践」が私を自然と「継続」に導いてくれたのです。



山田先生の最新刊を 10名の方にプレゼント

『希望と勇気をもって生きぬく40のいい話』

学事出版 定価 1575円

子どもを取り巻く諸問題を前に、子どもの目線で素直に語りかけ、「どう生きるか」を考えさせることを目的に山田先生が書かれたのが本書。教育現場、家庭での親子の会話など、さまざまな機会に、本書の話題は活用できます。

抽選で10名の方に、プレゼントします。

●応募は、ハガキに郵便番号、住所、氏名、本誌への感想、山田先生の本希望と明記の上、〒105-0004 東京都港区新橋2-20-15 新橋駅前ビル1号館 財団法人理想教育財団 季刊理想係までお申込みください。締切は8月末日消印有効。